

第 33 講 【 診断論 III 】 教科書 P.100～105

『 舌苔の望診 』（苔色・苔質）

1. 苔色

：苔色は主に白・黄・灰・黒の区別する。

その他、緑苔、霉醬苔なども存在する。

① 白苔

定 義	正常な舌苔の色。白色を呈する。
主 病	正常、表証、寒証；熱証（特殊な状況）

② 黄苔

定 義	黄色を呈する舌苔
主 病	裏証、熱証；表証、陽虚（少見）

③ 灰苔

定 義	うすい黒色を呈する舌苔、白苔が暗色に変化することにより生じる。
主 病	裏証、裏熱、痰飲、寒湿

④ 黒苔

定 義	灰苔より濃い色を呈する舌苔、灰苔か焦黄苔から変化して発生する。
主 病	裏証、熱極、陽虚寒盛；湿熱、陰虚

⑤ 緑苔

定 義	緑色を呈する舌苔。白苔から変化することが多い。
主 病	灰苔、黒苔に同じ、但し熱証だけにあらわれ寒証では見られない。

⑥ 霉醬苔

定 義	紅、黒、黄の色調が混ざったべっとりとした舌苔。いちごジャムに似ていることからこの名称で呼ばれている。
主 病	湿濁が長期にわたって化熱したことを示す。

2. 苔質

：苔質は、苔の厚さ・湿潤度・粘稠性・分布・剥落の有無などを区別する。

① 厚薄

i. 薄苔

定 義	「見底」、舌苔を透して舌体が見えるもの。
意 義	病変が軽度で邪気の勢いも強くなく正気にも損傷がないことを示す。
主 病	表証、(内傷病の) 軽証

ii. 厚苔

定 義	「不見底」、舌苔を透して舌体が全く見えないもの。
意 義	邪盛(実証)を示す。
主 病	邪盛入裏(外感病)、痰・飲・湿内停、食滞

② 潤燥

：舌面は適度に湿潤しているのが正常で、湿潤し過ぎたり、乾燥し過ぎるのはともに津液の状態が異常であることをあらわす。

i. 滑苔

定 義	舌面の水分が過多で湿潤しすぎていて、触れてもツルツルして濡れ、甚だしい場合には舌を伸長するとよだれが滴下するようなもの。水滑苔ともいう。
主 病	寒証、湿証

ii. 燥苔

定 義	舌苔が乾燥し、触れても湿気が感じられないもの。
分 類	燥 苔 : 上述 糙 苔 : 舌苔が乾燥し顆粒が砂石状を呈し、触れるとザラザラする感じのもの。 燥裂苔 : 舌苔が乾燥し裂紋が入っているもの。
主 病	陰虚、陽虚気化不行

③ 腐膩

：粘稠でべったりとした感じを腐膩といい、腐苔と膩苔は無根か有根かで区別する。

両者が同時に存在したり、いずれであるのか区別が不明瞭な場合には「腐膩苔」と称する。

i. 膩苔

定義	舌苔がべっとりとして粘った感じがし、顆粒が細かく密であり有根のもの。
分類	膩苔：上述 粘膩苔：表面を粘液が覆っているように見えるもの。 垢苔・濁苔：顆粒が不明瞭になると同時に汚穢で暗色を呈するもの。 「垢苔」「濁苔」「垢膩苔」「濁膩苔」「垢濁苔」などがある。 (軽) < 濁苔 < 垢苔 < 濁膩苔 < 垢膩苔 < 垢濁苔 < (重)
主病	湿盛、痰飲、食積、湿熱、頑痰

ii. 腐苔

定義	舌苔の顆粒が粗大で厚くまばらであり、豆腐の食べかすが舌面に堆積しているようなもので、舌苔は無根。
分類	腐苔：上述 腐垢苔・浮垢苔：苔色が暗く汚いもの。 膿腐苔：膿汁様の粘液がついたようなもの。 霉腐苔：舌面に白膜や米粒様白点として腐苔がみられるもの
主病	食積、痰飲、陰虚内熱の晩期

④ 剥落

定義	舌苔が完全にあるいは部分的に剥がれ落ち、境界が明瞭なもの。
分類	光剥苔：舌苔が完全に剥落して乳頭も消失し、舌面が鏡面状を呈するもの。 「鏡面舌」ともいう。 花剥苔：舌苔の剥落が部分的であり、剥落した場所は光滑を呈し、花卉様の舌苔が斑状に残存するもの。 類剥苔：舌苔の剥落が部分的であり、剥落部が光滑ではなく新生の顆粒が認められるものをいう。地図状に剥落して類剥苔を呈し、剥落部分が日時の経過とともに変化するものを「地図舌」という。
主病	舌苔の剥落は胃気や胃陰の存亡を示し、予後を推測するのに重要な意味を持つ。

⑤ 偏全

i. 全苔

定義	舌苔が舌面全体をほぼ均等に覆うもの。(正常な舌苔は舌尖部がやや薄い) 苔が舌の全体を厚く覆っているものを「満布」という。
----	--

ii. 偏苔

定義	舌苔が左右前後のいずれかに偏在したり局所的に存在するもの。 上述の剥落苔との違いは剥落部の境界が不明瞭であるところ。
分類	偏外苔 : 舌苔が舌尖部に偏在するもの。 偏内苔 : 舌苔が舌根部に偏在するもの。 偏中苔 : 舌苔が舌中部、舌根部のみに偏在するもの。 中根部少苔・無苔 : 偏中苔の逆。 偏左苔・偏右苔 : 舌苔が舌面の左右の一側に偏するもの

『 舌診の要点 』

【 舌色 】

舌色	主病	舌色	主病
淡紅	正常	絳	熱証(実熱のみ)、血瘀
淡白	血虚証、陽虚証、気虚証	紫	(気滞)血瘀
紅	熱証	青	寒凝陽厥、血瘀

【 舌形 】

舌形	主病	舌形	主病
胖大	気虚、陽虚	点刺	実熱
瘦薄	陰虚、血虚	瘀点瘀斑	瘀血
齒根	気虚、陽虚	舌下絡脈	瘀血
裂紋	陰虚、血虚		

【 苔色 】

苔色	主病	苔色	主病
白	正常、寒証	黄	熱証

【 苔質 】

苔質	主病	苔質	主病
薄	正常、軽傷	膩	痰湿、食滞
厚	実証	腐	食滞、痰湿
滑	寒証、湿証	剥落	胃気虚、胃陰虚
燥	津液不足、陰虚		

2. 聞診

: 聞診は[聴覚]と[嗅覚]を用いて弁証に必要な情報を獲得する診察方法である。

聞診 { 音声を聞く (聴覚)
臭いを嗅ぐ (嗅覚)

1) 音声を聞く

(1) 音・・・肺 (腎) との関わりが深い

{ 高くて力強い声・・・実証、熱証
低くて弱々しい声・・・虚証、寒証

【失音】: 声がかすれ、ひどければ全く声が出ない。

* 新病、突然声が出なくなる、表証・・・外感犯肺

* 久病、咽喉が乾燥して声がかすれる・・・肺腎両虚

(2) 言語・・・心との関わりが深い

{ イライラして多言・・・実証、熱証
静かで口数が少ない・・・虚証、寒証

【言語錯乱】

実証 { 譫語 (熱擾心神): 意識昏迷、話が支離滅裂、声は高く力強い
狂言 (痰火擾心): 言語が荒々しく、常軌を逸してわめき散らす

虚証 { 鄭声 (心気大傷): 意識不清、話が重複・断続的、声は低く弱々しい。
独語 (心気損傷): ひそひそ独り言を言い話に脈絡がない。

(3) 呼吸・・・肺・腎との関わりが深い

{ 呼吸が粗く、呼吸音が高い・・・実証
呼吸が微弱で呼吸音が高い・・・虚証
少気 (呼吸が微弱)・・・気虚
太息 (ため息)・・・肝気鬱結

(4) 咳嗽・・・肺との関わりが深い

{ 咳声が重く濁る・・・実証
咳声が低く弱々しい・・・虚証

2) 臭いを嗅ぐ

: 患者の体臭、口臭、腋臭などの臭いと、大小便、帯下、膿汁等分泌物の臭いなどを嗅ぎ弁証に必要な情報を収集する。

『 その他東洋医学用語 』

- * [短 気]: 息切れ
- * [喘]: 呼吸困難
- * [噯 気]: げっぷのこと、噯気とも書く
- * [吃 逆]: しゃっくりのこと、呃逆・噦ともいう
- * [欠]: あくび
- * [噴 嚏]: くしゃみ
- * [鼾 声]: いびき
- * [呻 吟]: 苦しみ、うめき
- * [驚風証]: 小児が発作的に驚いたように叫ぶもの

『 聞診に関わる五行色体 』

	木	火	土	金	水
五臭(五香)	羶・臊	焦	香	腥	腐
五 声	呼	笑	歌	哭	呻
五 音	角	徵	宮	商	羽